

目指す子供の姿

- 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に使うことができる。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する活動において、目的や意図に応じ、必要な情報を選び、他者と伝え合うことを通して、自分の思いや考えを明確にしたり、深めたりして、表現することができる。
- 課題解決に向けて活動に粘り強く取り組むなかで、言葉を通じて人と関わり、言葉がもつよさを認識しようとしたり、言葉をよりよく使おうとしたりしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①言語環境の整備と継続的に取り組む場の設定

- ◇語彙を豊かにするために、教師の話、資料・書籍、掲示等を充実させる。
- ◇読書、音読、視写・聴写、短作文等、楽しく反復できる手立てを増やす。

②子供の興味・関心や必要感を踏まえ、主体的に取り組むことができる単元の構想と展開

- ◇実生活との関連を踏まえて言語活動の目的や学習課題を明確にする。
- ◇子供の実態に即して、学習過程を弾力的にし、繰り返したり取り立てたりして指導する。
- ◇学習の手引きの作成や多様なモデルの提示等指導・支援の方法を多様にする。
- ◇言葉による見方・考え方を働かせるために、子供が比較・分類・関連付け等様々な思考に取り組むよう発問や指示を工夫する。

③身に付けた国語科の資質・能力や学習内容の自覚化を図る指導の充実

- ◇多様な学習の記録(ノート、表現物、教材・教具、映像・音声資料等)が生まれるように工夫する。
- ◇「書くこと」を通して振り返りができるように、書く場面を設定し、書き方を指導する。